兵庫県政150周年記念事業・古代鏡展示館春季企画展

# 吉祥の図像 鏡に表された願い

平成30年３月15日（木）～９月11日（火）

企画展解説シート　第３号

兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

## 鏡の力

鏡が姿見として普及した漢の時代（紀元前202年～紀元220年）、良質な材料を用い、優れた工人が制作した鏡は、清らかな光で人を照らし、神秘的な力によって所有者に恩恵を与えると信じられた。

鏡の裏面には細密な紋様がある。そこには当時の人々が考えた宇宙観や神仙世界が表現されている。鏡の中の神々は、天地万物の秩序を保つため互いに影響し合い、生成や変化を助けるために働いている。めでたさの前兆となる瑞獣（ずいじゅう）や瑞鳥（ずいちょう）の姿は、所有者への幸福の到来を予言する。

鏡の所有者は、神々の働きによって陰陽を調和し、不幸を避けることができる。その結果、さまざまな願いをかなえ、幸福を手にすることができると考えた。

「大楽貴富」

楽しみが永遠に続くことを願う鏡
螭龍紋鏡
前漢（紀元前２世紀　径 16.2cm）

「吉羊（祥）」

神々の働きで吉祥が得られる鏡
鍍金対置式神獣鏡
後漢（紀元２世紀　径 14.9cm）

## 人々の願い

鏡の銘文には、図像の説明と長寿や出世、子孫繁栄などの効能を表したものがある。

社会が安定する前漢半ば（紀元前２世紀頃）の鏡には、楽しい日々の永続など個人的な幸福への願いが表される。

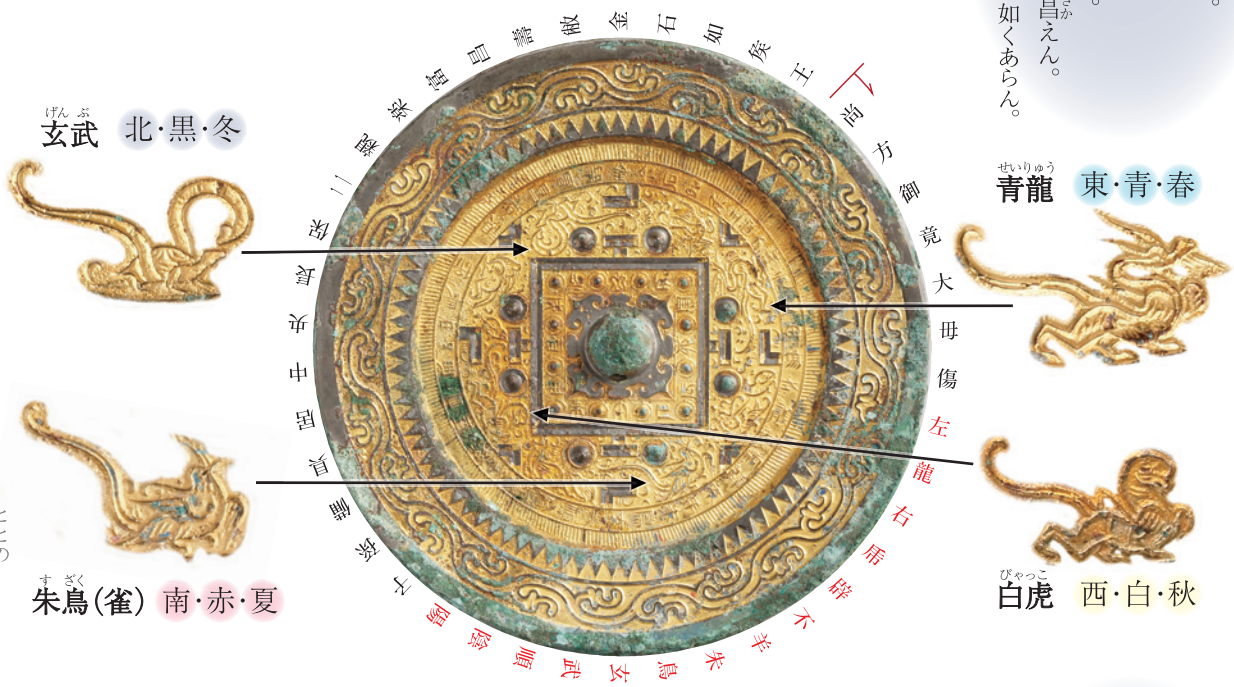
前漢の後半（紀元前１世紀）以降、儒教思想が広がりを見せると、「家」が意識され始める。鍍金方格規矩四神鏡（裏面参照）では、両親の平安や子孫繁栄など家の興隆の願望が鏡に託される。

# 鏡の中の神々

## 四神

天界の瑞獣。東西南北に配して神格化され、鏡の図像としては前漢後半（紀元前１世紀）頃の方格規矩四神鏡から登場する。四神は万物の生成に関連する五行思想にもとづき、方位、色、季節などが配され、所有者が天と調和できることが期待された。

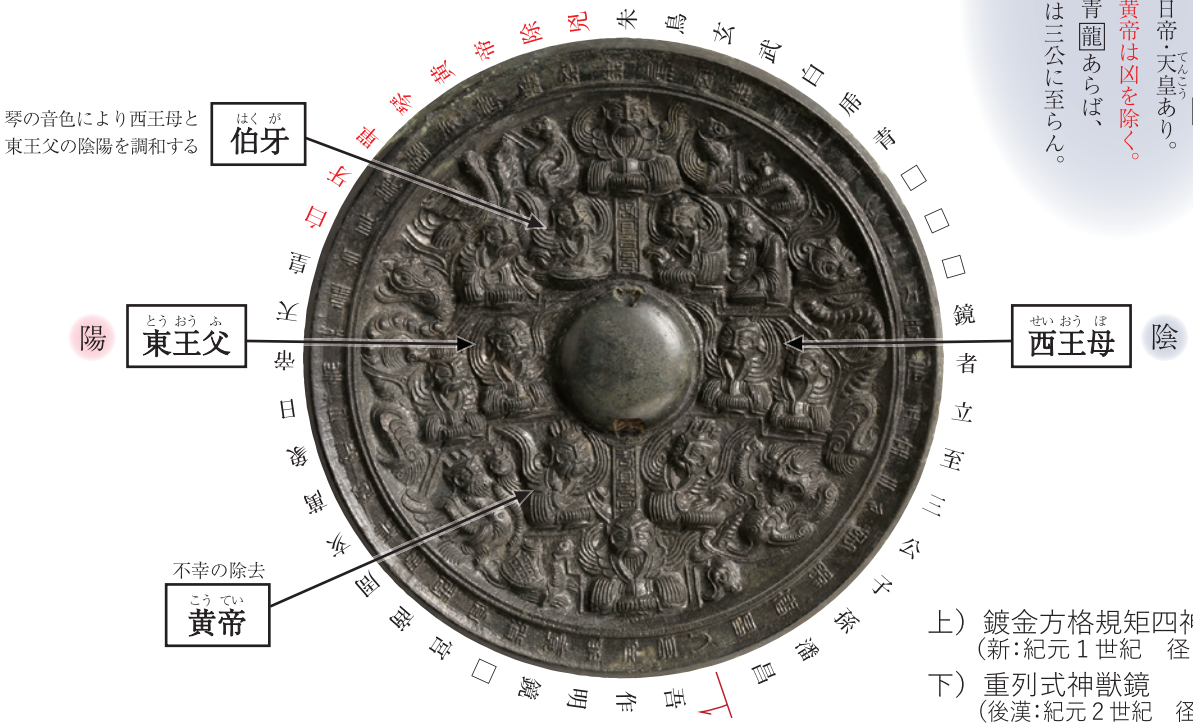
〔銘文〕
尚方の御鏡は、大いに傷なし。
左龍と右虎は、不祥を辟く。
朱鳥と玄武は、陰陽を順う。
子孫は備具し、中央に居らん。
長く二親を保ち、楽しみ富み昌えん。
寿は金石とともに敝き、侯王の如くあらん。




## 神仙

不老不死の神仙世界を表す神。後漢（紀元２世紀）頃の画像鏡や神獣鏡に登場する。古代中国の人々にとって、永遠を獲得できる神仙世界は理想郷だった。不死を司る「西王母」と相対する「東王父」に加え、伝説の琴の名手「伯牙」や神話上の帝王である「黄帝」などがいる。

〔銘文〕
吾れ明鏡を作るに、宮・商を□
萬像を彫刻して、日帝・天皇あり。
伯牙は琴を弾き、黄帝は凶を除く。
朱鳥・玄武、白虎・青龍あらば、
□鏡を□者は位は三公に至らん。
子孫は潘昌せん。




上）鍍金方格規矩四神鏡
（新：紀元１世紀　径16.4cm）

下）重列式神獣鏡
（後漢：紀元２世紀　径13.5cm）


編集・発行：平成 30 年 3 月 15 日　兵庫県立考古博物館加西分館
兵庫県加西市豊倉町飯森 1282-1　TEL：0790-47-2212
29 教Ⓟ2-049A4